

実践事例.09

生徒が「先生」となる
地域&異世代交流で
人間関係形成力を伸ばす

三重県立久居農林高校

専門高校の特性を生かし
地域交流を実践

農業学科6コースと家庭科3コースから成る久居農林高校。2010年度より、その専門性を生かした地域交流型事業「わくわく農林塾」、11年度から地域企業での現場実習「日本版デュアルシステム」を実施している。

「わくわく農林塾」は、保幼小中が隣接するという立地条件を生かし、幼児・児童生徒を対象に、生徒たちが「先生」となつて、普段の授業や農業実習などで学んだことを教えるという取り組みだ。

「他者に教える」という活動を通して、専門知識への理解、技術の実践力が深まります。また、地域の人たちと交流することで社会性やコミュニケーション能力を身につけることができると考え、行っています（環境保全コース・生川正秋先生）

一方、「日本版デュアルシステム」は、希望生徒を対象に2、3カ月間、週1度の割合で行っている企業等での現場実習。11年

度は8人、12年度は10人の生徒がJAやパン工房、動物クリニック、畜産農家など地元事業者のところで勤労実習を受けた。「就職につながる生徒もいますが、本校ではあくまで勤労観、職業観の育成と、社会で必要なコミュニケーション能力などの育成を目標にした取り組みと位置づけています」（生川先生）。

相手校のニーズを
目標にする

「わくわく農林塾」は農業学科のコース別にテーマを決め、実施している。だが、共通して重要視しているのは「事前計画段階で相手校のニーズをつかむこと」だ。

「体験を通して、児童に農業の大切さや魅力を体得させたい。できれば、こんな気づきを与えたい」という先方の意向を高校生たちに把握させます。そうすることで行動目標が明確になるので、高校生も、では自分たちは何をすればいいのかと、真剣に考え始めます」と語るのは植物コースの

校長
齋藤俊彰先生教頭
留永裕也先生農業部主任
環境保全コース
教諭
生川正秋先生農業部
植物コース
生徒指導部主任
教諭
信藤崇文先生

信藤崇文先生。同コースでは2年次に小3、3年次に幼稚園児を対象に「野菜の栽培」を行っているが、子どもたちを飽きさせないようクイズ形式で進行したり、作業が終わったあとは、鬼ごっこやピールハウス(案内したりしているそう)。「小さな子と接するのが苦手な生徒も、回を重ねていくうちに、自然に相手を想う気持ちが芽生え、自分なりの接し方を習得しています」

また、実施のプロセスと自身の考察を徹底的に書かせる「実習日誌」や3学年での「課題研究」がこの取り組みの相乗効果を上げるという。

「書くことで自己評価をし、反省することで次への課題に気づける。こういった専門的な学習があるからコミュニケーションにおいて最も大切な、中身が養われるのです。交流の基礎は普段の学習なのです」（信藤先生）。

「デュアルシステム」でも、実習のたびに日誌作成は徹底させている。「最初は『いらっしやいませをしっかりと見え



「わくわく農林塾」の様子。幼稚園児にケガをさせないよう細心の注意を払いながら作業を指導したり、一緒に歩いたりする高校生たち。



Communication skills

コミュニケーション能力を育む



植物コースの永崎彩夏さん(左)と一瀬楓さん。「幼稚園児や小学生への説明のしかたは難しい(永崎さん)。「販売職を目指す」という。異世代交流の経験が役立つと思う」と一瀬さん

「基礎的・汎用的能力」を測る「事後アンケート」は、3段階で自己評価してもらう。その結果「年に1回のみ実

「図3の生徒は、事後評価が非常に高くなっていますが、反対に、赤い線が青の線よりも小さくなる、つまり、事後評価が下がる生徒もいます。それは決して効果がなかったということではなく、デュアルシステムを経験して、その子なりの気づきがあったとらえていきます(生川先生)

「事前事後意識アンケート」は5段階評価。実施前と後に行い、その変化を見る。例えば、「デュアルシステム」を経験した生徒のアンケート結果を考察すると、「一人ひとり異なるパターンの円グラフになる。自己評価が個人によって全然違うわけだ。その結果の一例が図3。

「事前事後意識アンケート」は5段階評価。実施前と後に行い、その変化を見る。例えば、「デュアルシステム」を経験した生徒のアンケート結果を考察すると、「一人ひとり異なるパターンの円グラフになる。自己評価が個人によって全然違うわけだ。その結果の一例が図3。

事前事後アンケートで実施効果を検証

「基礎的・汎用的能力」を測る「事後アンケート」は、3段階で自己評価してもらう。その結果「年に1回のみ実

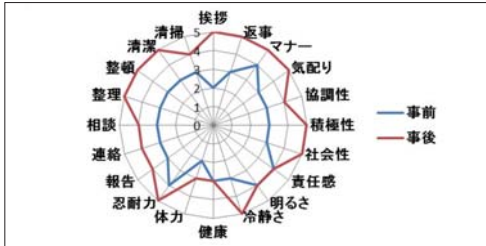
「図3の生徒は、事後評価が非常に高くなっていますが、反対に、赤い線が青の線よりも小さくなる、つまり、事後評価が下がる生徒もいます。それは決して効果がなかったということではなく、デュアルシステムを経験して、その子なりの気づきがあったとらえていきます(生川先生)

「事前事後意識アンケート」は5段階評価。実施前と後に行い、その変化を見る。例えば、「デュアルシステム」を経験した生徒のアンケート結果を考察すると、「一人ひとり異なるパターンの円グラフになる。自己評価が個人によって全然違うわけだ。その結果の一例が図3。

「事前事後意識アンケート」は5段階評価。実施前と後に行い、その変化を見る。例えば、「デュアルシステム」を経験した生徒のアンケート結果を考察すると、「一人ひとり異なるパターンの円グラフになる。自己評価が個人によって全然違うわけだ。その結果の一例が図3。

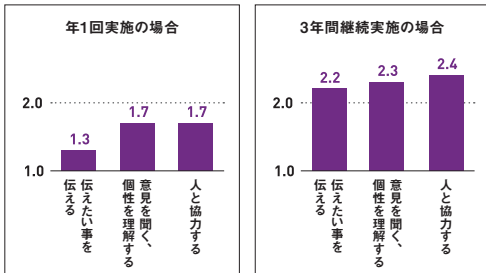
「事前事後意識アンケート」は5段階評価。実施前と後に行い、その変化を見る。例えば、「デュアルシステム」を経験した生徒のアンケート結果を考察すると、「一人ひとり異なるパターンの円グラフになる。自己評価が個人によって全然違うわけだ。その結果の一例が図3。

図3 ある生徒の「事前事後意識アンケート」をもとに出した「デュアルシステム」実施結果



社会生活における基礎的な能力についての数値もアップしており、かなり自信が身についたことがわかる。

図4 「事後アンケート」をもとに出した「わくわく農林塾」で身についた基礎的・汎用的能力



年1回の実施のコースより、3年間継続し複数回実施したコースのほうが、明らかに「人間関係形成・社会形成能力」は身についている。

図1 事前事後意識アンケート

※デュアル わくわく共通(一部抜粋) ダウンロード可

事前事後意識アンケート

(わくわく農林塾・日本版デュアルシステム共通)

今のあなたは、以下の項目のそれぞれについてどのくらい力をつけていると自己評価しますか。各項目について5段階(1～5)の数字を記入してください。(5段階 1:全く自信がない 2:どちらかといえば自信がない 3:普通である 4:自信がある 5:大いに自信がある)

()年()組()席 名前()

内容	項目	自己評価
自発的に挨拶ができる	挨拶	
言われたことに対して返事ができる	返事	
社会や職場(学校)のマネーが守れる	マネー	
周りの人や仕事に対して気配りができる	気配り	
協調性を持って仕事(学校生活)ができる	協調性	
仕事(学校生活)を積極的に行うことができる	積極性	
社会性をもって生活することができる	社会性	
責任感を持って仕事(学校生活)ができる	責任感	
明るく仕事(学校生活)を送ることができる	明るさ	
様々な場面に冷静に対応できる	冷静さ	
健康に生活を送ることができる	健康	
体力に自信がある	体力	

図2 事後アンケート(基礎的・汎用的能力)

※デュアル わくわく共通(一部抜粋) ダウンロード可

事後アンケート

デュアルシステムの学習を通して、自分の学習に効果があったかどうかについて振り返って、アンケートに回答してください。

3 かかりできるようになった 2 少しできるようになった 1 あまりかわらない

○ 以前に比べて自分の伝えたいことを相手にしっかりと伝えることができるようになりましたか。

○ 以前に比べて相手の意見を聞いたり、個性を理解したりできるようになりましたか。

○ 以前に比べて人と協力してできるようになりましたか。

○ 以前に比べて自分の可能性が広がったと感じましたか。

○ 以前に比べて忍耐が身についたと思いますか。

○ やればできると感じるようになりましたか。

○ 何か自分自身の課題を発見することができましたか。

○ うまくいかない時、他の方法を工夫して試すことができましたか。

○ 計画的に取り組むことができるようになりましたか。

○ これからの学校の授業に何か役に立つと思いましたか。

「今後の課題は何でしょうか?」 「日本版デュアルシステム」に関しては、生徒に、自分自身の変化を気づかせること。そのためにはやはり「日誌」や事前事後ア

「信藤先生」。